

いわて復興だより

がんばろう！岩手 つなごろう！岩手

三陸復興

第99号

平成28年1月15日号

復興に向けて歩み続ける岩手県の今を紹介します

平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波。発災以来、全国そして海外からも多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げます、この「つながり」を大切にしていきたいと思っております。

「本格復興完遂年」と位置づけられた本年。希望郷いわて国体・大会を控え、復興の加速に期待が寄せられています。

復興に向けて歩み続ける岩手の今を紹介します。

『東北横断自動車道釜石秋田線』 遠野ー宮守間開通

遠野市

平成27年12月5日（土）、国が復興支援道路と位置付ける「東北横断自動車道釜石秋田線」の遠野インターチェンジ（IC）ー宮守IC間約9kmが開通しました。

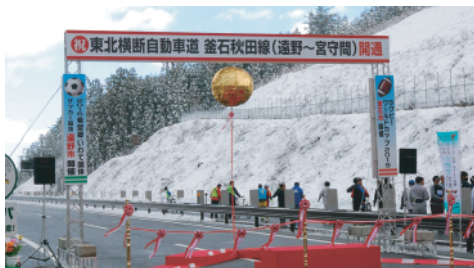
同日は、遠野市宮守町下鱒沢（しもますざわ）の宮守IC付近で開通式が行われ、安倍晋三内閣総理大臣をはじめ達増知事、沿線自治体関係者、地域住民ら約160人が出席。

安倍総理は、「今回の開通で、釜石

ー花巻までの横断道路8割が完成した。地域の復興・創生を図る上で、大きな役割を果たすことが期待される。2019年（平成31年）には、ラグビーワールドカップが釜石で開催され、世界中から多くの選手・観客がこの道路でやってくる。たくさんの子供・若者に夢と希望、感動を与える大会となるよう、政府として最大限の協力をしていきたい。」と挨拶し、テープカットで開通を祝いました。

今回の開通で、釜石ー花巻間約80kmのうち、約63kmが使用可能となり、平成30年度には、遠野ICー遠野住田IC間の約11kmと釜石西IC（仮称）ー釜石ジャンクション（仮称）間の約6kmが完成する予定です。

今後は、物流や観光振興の活性化、沿岸地域からの緊急搬送等、全線開通に向けて大きな期待が寄せられています。



宮守ICでの開通式



出席者によるテープカット



開通した宮守ICー遠野IC

「いわて三陸復興フォーラム in 静岡」が開催されました

静岡市

平成27年12月18日（金）、「つながりから培う復興と備え」をテーマに「いわて三陸復興フォーラム in 静岡（主催：岩手県）」が、しずぎんホールユーフォニア（静岡市葵区）で開催されました。

このフォーラムは、東日本大震災津波で寄せられた支援に感謝を伝えるとともに、県外の方々に東日本大震災津波の記憶を永く留めていただき、人々に“備え”の意識を培ってもらおうと開催されたもので、大阪、名古屋、神戸に続き今回で4回目となります。

達増知事は、「静岡県や静岡市をはじめ各自治体からは震災直後から多くの応援職員を派遣いただき、民間からも、ボランティア派遣や漁業への支援など、様々な被災地支援活動をいただいている。」と挨拶。

続いて、川勝平太・静岡県知事、達増知事、牛山素行・静岡大学防災総合センター教授・副センター長は、「東日本大震災津波の教訓を生かした災害に強い地域づくり

について鼎談（ていだん）しました。

「つながりから培う復興と備え」をテーマとしたパネルディスカッションでは、静岡新聞社編集局次長・論説委員兼編集委員の荻田雅宏さんをコーディネーターに迎え、両県のパネリストがそれぞれの活動や交流をもとに、防災意識や人々の培うべき“備え”について話し合ったほか、ロビーでは、県産品の物販コーナーや報道パネル展「ともに前へ」等も展開され、岩手県と静岡県のさらなる絆とつながりを深めたものとなりました。



パネルディスカッションの様子



岩手県産品を眺める両知事



「e!いわて（いわてつながり情報局）」は、復興に関連する岩手のニュースや情報を知ることのできるアプリです。

入手した情報はTwitterやFacebookに投稿しシェアすることができます。以下のOSを搭載したスマートフォンでご利用いただけます。

・Android OS4.0以降、iOS6.0以降

詳しくは

いわてつながり情報局

検索



国内唯一の常設カフェレストラン 釜石市 「ミッフィーカフェかまいし」オープン！

釜石市

平成 27 年 12 月 23 日（水・祝）、釜石市が市内中心部に整備した「釜石情報交流センター」1 階に、「ミッフィーカフェかまいし」がオープンしました。

同カフェは“ミッフィー”の絵本作家であるオランダ人のディック・ブルーナ氏、オランダ王国大使館及び株式会社ディック・ブルーナ・ジャパンの協力のもと、釜石に元気と希望をもたらし、人々の交流の場となるようにと造られたもの。

被災したまちに色彩をもたらし、復興のシンボルにしようとして世界中で愛されているウサギのキャラクター“ミッフィー”をコンセプトにデザインされた国内唯一の常設カフェレストランです。

同カフェでは、ミッフィーをモチーフとしたランチやワッフルが楽しめるほかトートバッグ等、オリジナルグッズを購入することもできます。



オープンした「ミッフィーカフェ」

被災地・三陸の復興へ向け、多くの若者が情熱を注いでいます。連載「未来のさんりくびと」では、毎号、復興への熱い想いを秘めた若者を紹介していきます。第 51 回目は、熊谷 晃弘さんを紹介します。

PROFILE

陸前高田市生まれ。

小中高校と陸前高田市で過ごす。

高校卒業後、上京し専門学校で経営を学び、その後、東京の飲食店に勤務。平成 21 年、25 歳の時に陸前高田市に戻り、実家の有限会社 神田葡萄園に入社し現在は代表を務める。

歴史をつなぐワイン創りを

現在、代表を務める（有）神田葡萄園は、創業明治 38 年、今年で 101 年目を迎えます。

同社がある米崎町はりんごの産地として知られますが、その中、葡萄を栽培し、その原料を利用した清涼飲料水や炭酸飲料水の製造、ジャムの製造販売を手がけています。

沿岸地域での葡萄の栽培は国内でも珍しく、昨年の秋からは、自社農園で栽培された葡萄を

「小本津波防災センター」が完成 岩泉町 岩泉小本駅と一体化

岩泉町

平成 27 年 12 月 23 日（水・祝）、東日本大震災津波で被災した岩泉町小本地区に、「小本津波防災センター」が完成し、竣工式が行われました。

同センターは、災害時に一時避難所となる多目的室を備え、三陸鉄道（北リアス線）岩泉小本駅（駅名を「小本」から「岩泉小本」に改称）ホームと連絡通路で結ばれています。

鉄骨鉄筋コンクリート造り 3 階建てで、延べ床面積約 2,121 m²。1 階には岩泉町役場小本支所と観光物産コーナー、切符売り場、2 階には小本診療所と会議室のほか大津波資料室、3 階は一時避難所となる集会室兼多目的室となっています。

災害時に備え、自家発電設備や太陽光発電設備、毛布や非常食を備蓄する防災倉庫等も設置され、大きな被害を受けたこの地域の新しい防災拠点として期待が寄せられます。



完成した「小本津波防災センター」（写真提供：岩泉町）

未来の さんりく びと

有限会社 神田葡萄園
代表
熊谷 晃弘
（くまがい あきひろ）さん



熊谷さんからのひと言：
復興とともにあり続ける
『地』の味を造る。

使用したワインの製造も始めました。

「復興の事業の一環と捉えられるところもありますが、ワインの事業は震災前から考えていました。これから創業 150 年、200 年と続けていくためにも、しっかりとワインを作っていきたい。」と想いを語る熊谷さん。

地元に根付いた商品を目指して

震災前、地元の飲食店や宿泊施設に商品を届けていた熊谷さんは、「陸前高田市では多くのお店も流され、震災から 1~2 年は地元の取引が戻らないということもありましたが、最近では『また店を始めるから』と取引が再開されることも増えました。地元で長年やってきた立場からは嬉しいことです。復興という一過性のものでなく、地に足をつけて、地元に根付き定着する商品を作りたいと思っています。陸前高田市は海産物も獲れるし、合わせてワインを飲み観光に来てもらいたい。」と話します。

まちづくりが進む中、このワインが陸前高田市の特産になるよう期待が寄せられます。

岩手県の被害状況

平成 27 年 12 月 31 日現在

- ▶ 人的被害 死者（直接死）：4,672 人 行方不明者：1,124 人
- ▶ 建物被害（住家のみ、全半壊） 26,168 棟

被害状況等の詳細

義援金・寄付金の募集等

[いわて防災情報ポータル](#)

[検索](#)

皆様のご支援、ありがとうございます

平成 27 年 12 月 31 日現在

- ▶ 義援金受付状況 約 184 億 3,776 万円（92,605 件）
- ▶ 寄付金受付状況 約 197 億 2,779 万円（7,599 件）
- ▶ いわての学び希望基金（※）受付状況 約 78 億 9,788 万円（17,032 件）

※ 被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。

ビジュアル豊富な【いわて復興だより [Web](#)】もご覧ください!!

<http://iwate-fukkoudayori.com>

いわて復興だより 第 99 号 平成 28 年 1 月 15 日号 企画・発行：岩手県復興局復興推進課 ☎ 019-629-6925

いわて復興だよりバックナンバーは

[いわて復興だより](#)

[検索](#)

編集・印刷：シナプス

【次回のいわて復興だよりについて】次回は 2 月 1 日号の発行を予定しています。